

読む人の幸せを心に願って作る

喜びのタネまき新聞

No. 642

〈東京パラリンピック競技大会〉

オリンピックに続き、東京2020パラリンピック競技大会でも、各競技で多くの感動が生まれました。

特に心に残ったのは、競泳女子で銀メダルを獲得した日本選手です。まだ十代前半であることにも驚きましたが、競泳中の姿、そしてメダル獲得後のインタビューの受け答えに感銘を受けました。

この輝かしい栄冠は、選手ご本人の努力だけでなく、ご両親や周囲の方々の理解と支えがあつてこそ。そしてそれが明るい笑顔にもつながつたのだと思います。

ダスキンでは40年前から、障がい者の自立と社会との共生を目指し、「広げよう愛の輪運動基金(現・ダスキン愛の輪基金)」を社会貢献事業として続けています。

障がいのある若者を海外に派遣し研修を受けてもらう取り組みで、研修生たちはその貴重な経験を生かし、さまざまな分野で活躍されています。なかにはパラリンピック選手として活躍されている方もいます。

また、アジア太平洋地域の障がい者に、日本で障がい者福祉を学んでもらう取り組みも行っており、帰国後はそれぞれの国や地域で、障がいのある人も、ない人も心豊かに共生できる社会環境づくりに尽力されています。

パラリンピックでの選手たちの活躍を見て、改めて「ダスキン愛の輪基金」を継続すること、常に目標を持って活動することの大切さを感じました。

※イラストはイメージです



三重県

粥見のサザンカの大木

例年11月下旬を見頃に花を咲かせる粥見地区の大木。枝垂れて出来るサザンカのトンネルは圧巻です。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

